

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 10 章 1-13 節＞

### ①キリスト者の愛唱聖句第一位？ — 1コリント 10 章 13 節

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずだ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなされず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていて下さいます」。

信仰者なら誰でも一度は、苦難の中に置かれた時に思い出して励まされたことのある聖句でしょう。しかし、これをパウロがどういう文脈で語っているのかを丁寧に見るときに、私たちの勝手な思い込みではない、より深い正しい理解の仕方でも内容を捉えることができます。

### ②コリントの教会のある信者たちを戒めた文章の後に語られた言葉

パウロは、かつて父祖たちが荒れ野の旅で犯した三つの罪深い出来事を語り出します（出エジプト記 32 章、民数記 25, 21 章）。目につくのは「皆」の繰り返しです（1, 2, 3, 4）。それによって言いたいことは、「皆、主なる神様を信じたが、「彼らの大部分」(5)は「悪をむさぼり」(6)滅ぼされてしまった(5)。あなたがたも気をつけなさい」、ということです。「前例（見本・見せしめ）」という単語を2度も使って、今の私たちへの戒め、警告だと繰り返しています（6, 11）。パウロは8章で、コリントの信者が異教の神殿で飲食することについて、「強い信仰心があるから何をしても大丈夫だと考えるのではなく、弱い人のことも考えなさい」と教えました（8:11）、ここでは、「それらは偶像礼拝(7)、みだらな行為(8)、神の試し(9)、不平のこぼし(10)につながり、それによって神様に裁かれることになる」、とより強い注意を与えているのです。

### ③13 節の聖句中の「試練」で、本当に考えるべき試練は何か？

主の祈りの中の「我らを試みにあわせず、悪より救い出し給え」は、「苦難の中に置かれても、神様に不平を言ったり、神様以外の他のものに救いを求めたりしませんように」、という意味の祈りです。Iコリント 10 章 13 節も同じです。神様に真剣に対峙せず、恐れも持たずに生きていては、「神様は必ず助けて下さる」とは思えません。しかし、神様に真剣に向かい、誠実に生きていこうとするときには、「神様は必ず逃れる道を備えて下さっている」と思えるようになれるのです！